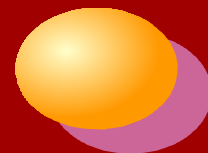


学校教育指導資料

学校図書館の とびらをひらこう



平成23年3月 函館市教育委員会



目 次

1 読書活動の充実に向けて	P 1
2 函館市における読書活動	P 2
・小・中学校の取り組みと課題	
3 学校図書館の活用推進を目指した	
取り組みの充実	P 4
・学校図書館活用推進事業の実施	
について	
・学校図書館アドバイザーの委嘱	
・学校図書館ボランティアの配置	
4 学校図書館活用推進モデル校による	
実践研究	
・函館市立桔梗小学校	P 5
・函館市立中の沢小学校	P 9
・函館市立北美原小学校	P 13
・函館市立桔梗中学校	P 17
5 学校図書館アドバイザーQ&A	P 21
資料 1 函館市学校図書館図書廃棄規準	
	P 26
資料 2 我が校の一冊	P 28
資料 3 函館の子どもに読ませたい本50冊	
	P 29
引用・参考文献	

この指導資料は、各学校における学校図書館の活用推進と、読書活動の一層の充実を目指し、平成22年度函館市学校図書館活用推進モデル校（函館市立桔梗小学校、函館市立中の沢小学校、函館市立北美原小学校、函館市立桔梗中学校）および平成22年度函館市学校図書館アドバイザー 中山公子氏のご協力を得て、作成したものです。

学校図書館運営に当たり、本資料を活用いただき、各学校の読書活動がさらに活性化することを願っています。

1 読書活動の充実に向けて

読書は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力や理解力を高め、想像力を豊かにし、人生をよりよく生きていくために、欠くことのできないものです。

「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年）、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（平成20年）においては、読書習慣や本を通じて物事を調べる習慣を子どもの時期から確立することの重要性をあげ、学校図書館がその機能を十全に発揮していくことが求められています。

子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画

平成20年3月11日閣議決定

第5章 子どもの読書活動の推進のための方策～学校等における子どもの読書活動の推進【小学校・中学校・高等学校等】

1 子どもの読書活動の推進における学校の役割

学校においては、従来から国語などの各教科等における学習活動を通じて、読書活動が行われてきており、子どもの読書習慣を形成していく上で、学校は大きな役割を担っている。

新しい教育基本法の理念を受けて、平成19年6月に改正された学校教育法の第21条においては、義務教育として行われる普通教育の目標の一つとして、「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと」（第5号）が新たに規定された。また、子どもたちの読解力向上が課題とされる中、平成20年の学習指導要領の改訂において、各教科等における言語活動を充実し、引き続き学校図書館の活用を図るとともに、学校における言語環境を整えることが必要とされている。

これら新しい教育基本法、学校教育法、学習指導要領を踏まえ、小学校・中学校・高等学校等における子どもの読書活動の推進を図ることが必要である。

3 子どもの読書活動の推進のための学校図書館等の機能強化

学校図書館は、児童生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄与する「学習情報センター」としての機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うことが期待されている。特に、学校教育においては、児童生徒が自ら考え、主体的に判断し、行動できる資質や能力などの「生きる力」をはぐくむことが求められており、学校図書館には、様々な学習活動を支援する機能を果たしていくことが求められる。



また、新しい学習指導要領においても、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項に「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」をあげており、学校図書館の活性化を図るとともに、人的・物的環境の整備が求められています。

小学校学習指導要領

第3章 教育課程の編成及び実施

10 学校図書館の利活用(第1章第4の2(10)) **小学校**

11 学校図書館の利活用(第1章第4の2(11)) **中学校**

学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。

中学校学習指導要領

5 教育課程実施上の配慮事項

2 函館市における読書活動

函館市内の小・中学校においては、全ての学校で朝読書に取り組んでいるほか、小学校では保護者やボランティアによる読み聞かせも多くの学校で行われています。また、読書週間や読書集会などの取り組みや、児童生徒の委員会による日常的な活動に工夫して取り組んでいます。

日常的な取り組み

小学校

- ・朝読書
- ・読書ノートを活用
- ・読書貯金
(通帳を作成し、読書記録を作成)
- ・1年生の学級文庫貸し出し
- ・保護者ボランティアや管理職による朝の読み聞かせ
- ・全校朝の会での新刊紹介
- ・図書館便りの発行

中学校

- ・図書便りの発行
- ・読書アンケートの実施
- ・学級文庫
- ・DVDなどの映像資料の整備
- ・調べ学習で有効に活用できる図書館づくり
- ・図書館を学習の場としても機能させるような工夫
- ・国語科と連携し、本を選ぶ目を養うような働きかけ
- ・国語科で図書館の一冊を紹介する文を書く学習に取り組む
- ・来館者へのしおりづくり
- ・読書感想文コンクールへの参加

読書週間

- ・校内読書感想文コンクールの実施
- ・読書標語の募集
- ・本のリクエスト募集
- ・紙芝居や読み聞かせの実施
- ・本のクイズ宝探しの実施
(本にかかわるクイズを廊下に掲示)
- ・全校児童のおすすめ本絵手紙展

学校図書館における活動

- ・図書委員会の活動
(紙芝居・放送による読み聞かせ・人気図書ランキング)
- ・ボランティアを活用した図書館の整備
- ・「読書へのアニメーション」の実施
- ・読み聞かせ会の実施



家庭や地域に向けて

- ・Webページを活用した家庭や地域への啓発
- ・金曜読書
(家庭での読書をすすめるため、毎週金曜日に本を借りるように呼びかけ)
- ・地域公開参観日での取り組み (全校児童への読み聞かせ)
- ・学校便りとの連携による新刊図書の保護者向けの紹介
(学校図書は地域の共有財産という観点から)

課題

1 図書館の環境整備

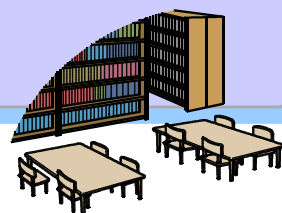
- データベース化にかかわること
 - ・データベース化に伴い、事務作業が繁雑になり、担当者だけでこなせなくなってしまった。
 - ・データ入力の作業が難しいため、毎年業者に依頼しているが、そのための予算を継続的に確保できるか見通しがもてない。
 - ・データベース化された図書館の担当になったが、このシステムをどうやったら有効に活用できるか分からない。
 - ・データベース化したことにより、貸し出しや返却の際、委員会の児童生徒が、個人情報である貸し出し記録を見られるようになってしまった。データを安全に管理するにはどうしたらよいか困っている。
- 図書整理にかかわること
 - ・分類番号の付け方が分からない。
 - ・ラベルが整備されていない本がたくさんあり、どこから手をつけていいか分からない。
 - ・蔵書が古く、児童生徒が読みたい本、読ませたい本が充実していない。
 - ・児童生徒がさがしやすい図書の配置にするにはどうしたらよいか分からない。
 - ・図書館が狭く、学級全員が座るスペースがない。
 - ・蔵書が多くて、新しく購入した本の配架スペースが確保できない。
 - ・廃棄すべきかどうか判断が難しい。作業量も多く、廃棄作業が滞ってしまう。

2 読書活動の充実・読書意欲の喚起

- ・高学年になると意欲が低下する傾向にあり、発達段階に応じて読書意欲を喚起するにはどうしたらよいか悩んでいる。
- ・購入図書の内容が偏っているが、購入する際、どの分野をそろえるべきか分からない。
- ・様々な分野の本に触れさせたいが、児童生徒の貸し出しや利用に偏りがある。どんな働きかけをしたらよいか知りたい。
- ・読書の習慣化を図るには、どうしたらよいか。
- ・学習活動に生かされるような多様な図書を選定したいが、担当者だけでは判断が難しい。
- ・生徒に情報リテラシーを身に付けさせるためにはどのような図書指導を行ったらよいか。
- ・校内読書週間を定着させたいが、どんな取り組みをすればよいのか分からない。
- ・図書館の利用者増加に向けた方策を知りたい。

3 図書館運営

- ・図書館に常に大人(教師)がいることができない。
- ・担当者が学級担任もしているので、なかなか思ったような活動ができない。
- ・司書教諭がない学校で、担当者は図書館運営に関する知識が足りず、業務をどのように推進していったらよいか、困ることが多い。
- ・読書やメディアを活用した授業の重要性について、教職員の理解を深める必要がある。
- ・貸し出し・返却の混雑をなくしたい。
- ・開館時間を限定しているため、学校図書館を十分に活用できない。



3 学校図書館の活用推進を目指した取り組みの充実

平成22年度、函館市では、学校図書館の活用推進を目指し、学校図書館活用推進事業を実施しました。モデル校4校に、学校図書館アドバイザーと学校図書館ボランティアを活用した1年間の研究実践をお願いしました。

学校図書館活用推進事業の概要

○目的

児童生徒の学力向上、読書意欲の向上、読書習慣の形成のため、学校図書館の管理運営や環境整備の充実に資する学校図書館アドバイザーの派遣及び学校図書館ボランティアの配置を行い、学校図書館の読書センター・情報センターとしての機能を充実し、その活性化と活用促進を図る。

○内容

学校図書館アドバイザー

モデル校を訪問し、学校図書館の管理運営全般や活動内容にかかわり、司書教諭や担当教諭、学校図書館ボランティアに対して助言を行う。また、必要に応じて学習活動や読書活動が円滑に行われるよう学校間の連携を図る。

- たとえば…
- ・環境整備について
 - ・蔵書の補修や配置について
 - ・各教科等の学習内容や学校行事と関連させた蔵書配置
 - ・児童生徒の委員会活動、読書イベント等について
 - ・ボランティアの活動の具体的な計画づくり

学校図書館ボランティア

学校図書館において、司書教諭やアドバイザーの指示のもと、次のような活動を行う。

- たとえば…
- ・休み時間や放課後等の貸し借りの補助
 - ・授業中児童生徒が必要な本を探す際の助言や手伝い
 - ・蔵書の補修や整理
 - ・環境整備や掲示物作成



図書館ボランティア研修会

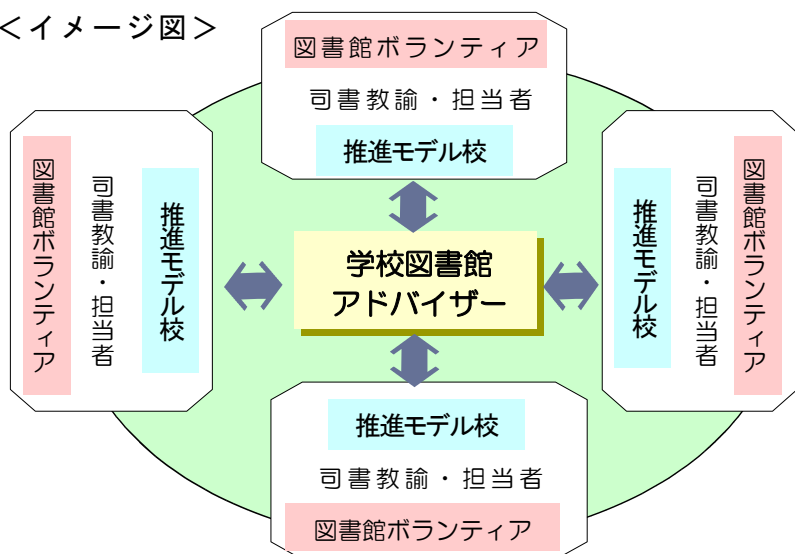
推進モデル校における研究実践

平成20年度より、桔梗・石川地区では、桔梗・石川地区読書活動推進委員会を立ち上げ、小・中学校、高等学校、PTA、町会が会員となり、学校、家庭、地域が連携して本に親しむ環境づくりに取り組んでいる。

本地域の小・中学校4校（桔梗小、中の沢小、北美原小、桔梗中）を研究モデル校として、学校図書館の活性化と活用推進を目指す実践的な研究を行い、教育的効果を検証する。

成果を資料としてまとめ、他の学校においても学校図書館の活用促進と活性化を図る。

<イメージ図>



4 学校図書館活用推進モデル校による実践研究

意欲を高める読書活動

函館市立桔梗小学校

学級数 19学級 児童数 522名 明治15年開校

学校の特徴

本校は、函館市の北側にあり、函館市と道央を結ぶ国道5号線の函館市街への入口部分にある学校である。本校の通学区域とされるのは、桔梗町、西桔梗町、石川町、亀田中野町の4町である。西桔梗は、北斗市へと続く大野平野と呼ばれる大農業地帯が広がっている一方で、函館市の経済の中心となる流通センターがあり、函館の流通産業の中心となっている。近年、桔梗町、石川町における宅地造成が盛んに行われ、児童数が増加傾向にある。

桔梗・石川地区には、町内会と地域にある小中高校およびそのPTAで組織されている桔梗・石川地区読書推進委員会があり、児童生徒への読書に関するアンケートを実施したり、読書推進ポスターの作成・配布などを通して、地域全体で日常的に読書活動に取り組んでいる。

学校図書館の状況と課題

【 施設・設備・環境 】

学校図書館は、校舎の2階に設置されている。蔵書冊数は平成21年3月31日現在、3,954冊であり、日本十進分類法の番号どおりに配架している。

【 運営 】

学校図書館は、月曜日から金曜日の中休みと昼休みに開放し、2年生以上に貸し出しを行っている。1年生は、学校図書館の図書を学級文庫として活用している。

委員会活動としては、図書委員会が組織されており、図書の貸し出し業務や蔵書整理の補助、図書委員会だよりの発行を通して、各学級の本の貸し出し状況の報告や新刊図書の紹介、図書館の利用の仕方の啓発などを行っている。

読書活動については、11月に校内読書推進週間「図書まつり」を開催し、期間中の貸し出し冊数の多い学級を表彰している。また、全校児童が「おすすめの本」紹介カードを作成し、昼の校内放送や掲示で紹介したり、図書館ボランティアの会による読み聞かせを実施したりしている。

【 課題 】

- ・蔵書冊数の増加に伴い、本棚が足りなくなってきており、本が探しにくい環境にある。
- ・学校図書館で本を借りる際には、各自が作成した代本板を使用している。それぞれの代本板の大きさに違いがあり、厚さも異なるため、貸し出しの利用数が増えると、代本板が本棚に置ききれなくなっている。
- ・学校図書館を利用する学年には偏りがあり、借りる本の種類も、自分の興味のある本に偏る傾向がある。

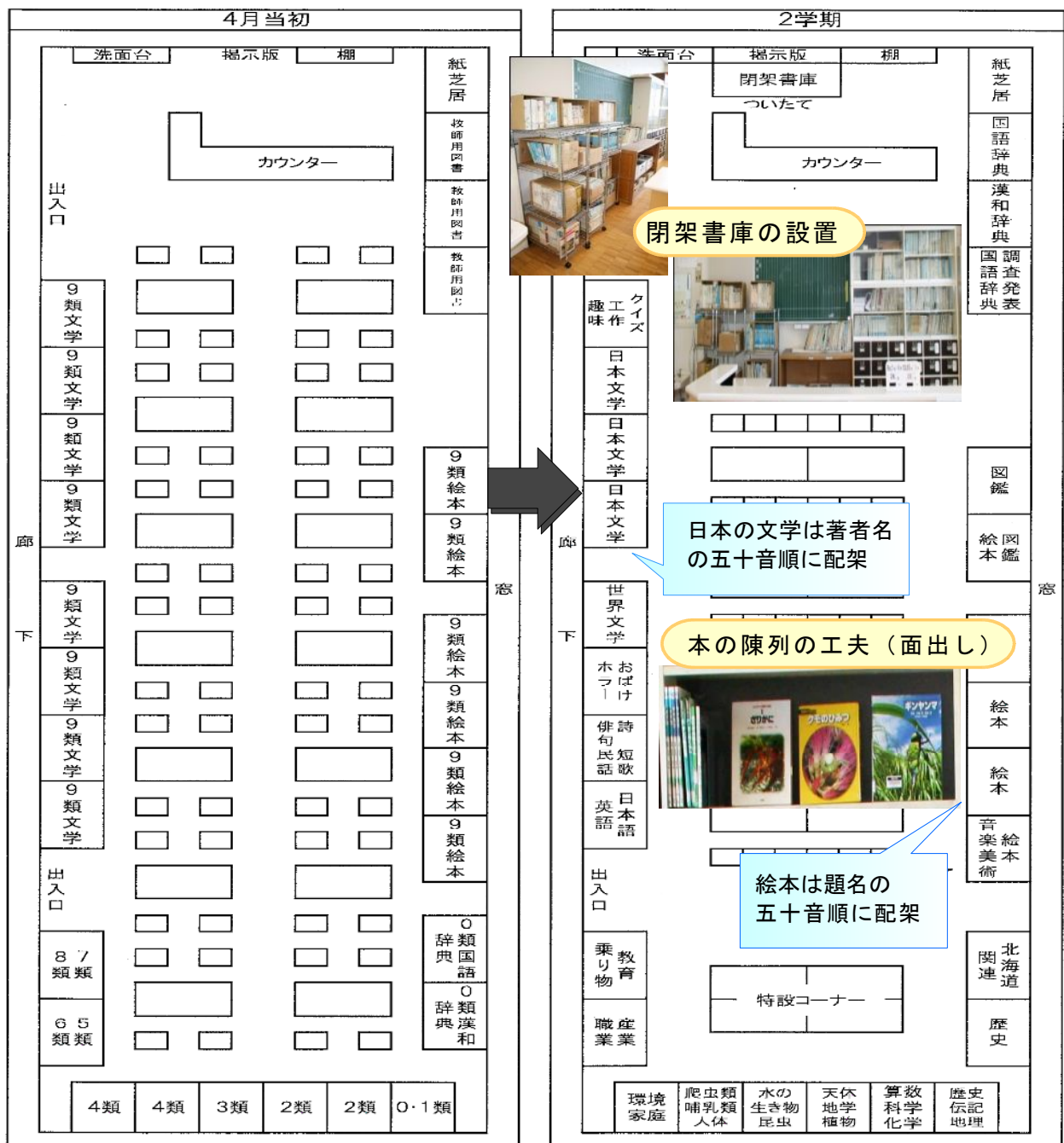
重点 1 学校図書館の環境構成の工夫による読書意欲の向上

学校図書館アドバイザーの助言により、学校図書館内に閉架書庫を設置し、20年以上前に搬入または発行された本を本棚から搬出することで、本棚の余裕を生み出した。

また、本棚の余裕を利用して、本の表紙が見えるように陳列する「面出し」を行った。本の分類は、日本十進分類法の番号どおりから、「日本文学」「おばけ」「動物」などのテーマごとに分類仕切板を使用して区分するようにした。

こうした環境の変化により、子どもたちから「図書館が明るくきれいになった」「図書館に行きたい」という声が聞かれ、「学校にこんな本があったんだ」と発見したり、今まで興味のなかった本に目を通す姿も見られた。さらに、夏休みの図書の貸し出しをきっかけに、頻繁に学校図書館を利用する子どもと学年の偏りがなくなっている。

函館市立桔梗小学校 学校図書館 レイアウト



重点2 特設コーナーの設置による読書の幅の広がり

7月に、はこだて未来大学図書館のかかく絵本を借用し、図書館内に特設コーナーを設けた。子どもは興味をもって本を手に取り、これまでは少なかったこの分野の本の貸し出しも増えた。続いて、かがく絵本展示の終了後に、自由研究にかかわる図書のコーナーを設けたところ、夏休みの自由研究のテーマに科学を選ぶ子どもがいたほか、夏休みの図書貸し出し数も増加した。

8月からは、毎月テーマを替えて特設コーナーを設けることで、特設コーナーの本を手にとったり、図書館ボランティアの方に「おすすめの本はなんですか」と質問したり、自分でテーマを決めて本を探すなど、今まで手に取らなかった本を借りる子どもが増え、貸し出される本の種類が多様になってきた。

本校には、学校図書館ボランティアが13名おり、月曜日から金曜日の10～11時と13～14時に交代で学校図書館へ来ていただき、図書委員による中休みと昼休みの図書貸し出しの補助や返却された本を本棚へ戻す作業や、本の整理や補修、特設コーナーの設置や掲示物の作成をしていただいている。

このような学校図書館ボランティアの活動により、来館者数の増加や読書意欲の向上、読書の幅の広がりといった子どもの変容が見られた。ボランティアからも「来年度もぜひ学校図書館ボランティアを募集してほしい」という声が聞かれるなど、学校・保護者・地域が協力して学校図書館を運営しようとする機運が高まってきた。

特設コーナーのテーマ

7月

はこだて未来大学かがく絵本
新刊図書の紹介
自由研究コーナー

8月

終戦記念日
水木しげる特集

10月

秋をみつけよう
美術、植物
秋をみつけよう
星座、食べもの

11月

読書クイズ
1,2年 日本昔話
3,4年 落語
5,6年 宮沢賢治

7月 はこだて未来大学かがく絵本



かがく絵本を
活用した夏休みの
自由研究



8月 水木しげる特集



10月

秋を
みつけよう



11月読書クイズ3, 4年落語



11月読書クイズ5, 6年宮沢賢治



重点3 研修部との連携による読書活動の指導法の工夫

本校では、研究主題「意欲を高める言語活動～読書活動や外国語活動における言語的活動を通して～」のもと、校内研究に取り組んでいる。特に、読書活動については、発達段階に沿った指導の工夫を図るとともに、朝読書を始め全校的な取り組みが可能であることから、学校図書館の有効な活用や子どもの主体的・意欲的な読書活動をはぐくむ指導の在り方について研究を深めている。

今年度は、国語科の学習の中で、低学年においては「ブックトーク」（テーマに沿った本の紹介）を、中学年においては「読書へのアニメーション」（読書クイズ）を取り入れた授業公開を行い、子どもの読書への関心・意欲を引き出す授業づくりを目指し、実践的な研究に取り組んだ。図書館でも特設コーナーを活用し、授業に合わせた本を展示した。

休み時間に学校図書館を利用する子どもたちが増えたこともあり、教職員が図書館に足を運び、授業における活用の仕方を検討する姿もよく見られるようになった。

低学年の学習に合わせ、昔話・民話コーナーの設置



成果と課題

○成果

- 1 学校図書館の環境構成を工夫し、子どもが利用しやすい環境を整備することで、読書意欲の向上を図ることができた。
- 2 学校図書館内に特設コーナーを設置し、子どもにいろいろな種類の本に触れさせることで、意図的に読書の幅を広げることができた。
- 3 研修部との連携により、学校全体で読書活動を実践することで、子どもの読書活動を充実させ、読書習慣の形成につなげることができた。

●課題

- 1 教職員や学校図書館ボランティアによる学校図書館の環境整備を継続し、子どもの読書環境の一層の向上を図っていきたい。
- 2 子どもの読書活動をさらに充実させるため、各教科等の年間指導計画と照らし合わせながら、特設コーナーの内容を検討する必要がある。
- 3 研修部との連携により、指導法の工夫や改善を継続し、特色ある教育活動をさらに充実させていきたい。

パワーアップ読書活動！～新しい学校図書館とともに～

函館市立中の沢小学校

学級数 14学級 児童数 438名 昭和25年開校

学校の特徴

本校は、函館市の北西部にあり、七飯町との境界線近くの大野平野を広く見渡せる眺望のよい丘陵地帯の中腹に位置する。畑作が盛んな地域であったが、近年は急速に宅地化が進み、居住者が増加した。学校周辺には、公立私立の各教育施設や各種病院などがある他、生活圏である桔梗駅周辺には商店も多い。地域には桔梗町会や桔梗北町会をはじめ、中の沢子ども会や諸団体等が組織され、本校PTAとともに、地域の学校としての本校への協力は絶大なものがある。

昭和62年に現校舎が完成し、平成14年には普通教室と特別教室等の増築工事が行われたが、さらなる児童数の増加に、特別教室の普通学級転用が余儀なくされている。学校図書館は平成18年度より普通教室となった。その中で桔梗・石川地区読書推進委員会としての活動や保護者による読み聞かせ活動など、環境面を補いながら読書活動を進めてきた。

学校図書館の状況と課題

【 施設・環境 】

平成18年度より、児童数の増加により、学校図書館は普通教室に転用された。

狭いスペースに貸し出しカウンターがあるだけで、図書のほとんどは廊下に並べた書架に置き、閲覧スペースはない状況であった。平成22年度、4年ぶりに学校図書館を復活することができたが、仕切りで2か所に分断されている状態が続いている。

【 蔵書 】

前年度1,929冊と多くの図書を購入できたが、平成22年度現在5,054冊と蔵書数としてはまだ不足している。調べ学習に必要な図書や読み物などを補充する必要がある。

【 運営 】

週2回の朝読書が定着している。読み聞かせボランティアの協力を得て、読書週間等で読み聞かせを実施してきた。学校図書館の運営は、児童会の図書委員が中心になって行ってきた。

【 課題 】

久しぶりに復活した学校図書館について、子どもが利用しやすいよう環境を整備する必要がある。また、読み聞かせ活動をさらに充実させるためには、ボランティアの人数が不足しており、広く保護者に呼びかけたい。さらに家庭でも読書に親しむ環境づくりとして、「読みたいときに本がある」状況をつくりたい。保護者や地域にも取り組みを発信し、歩調を合わせて読書活動を支えていきたい。



年度当初の様子



重点 1 読み聞かせ活動 ～学級から全校へ 読書週間から日常へ～

昨年度、朝読書の時間に、一部の学級で保護者による読み聞かせが始まった。学級の子どもは、読書への興味関心が大いに高まり、毎回楽しみに待つようになった。この成果を受け、今年度は読み聞かせの輪を全校に広げる取り組みを開始した。

まず、昨年度から活動していた2名の保護者に知恵の予算を活用した「読み聞かせボランティア」を委嘱し、特定の学級だけでなく、全ての学級での読み聞かせをお願いした。また、新たなボランティアの募集を行うとともに、次のような過程を繰り返すことで、読み聞かせを学校全体に根付かせることを目指した。

- ① 読み聞かせを行う学級を決め、学級通信で保護者に実施日時を知らせ、参加を呼びかける。
- ② 関心のある保護者は、朝読書の時間に来校し、読み聞かせを見学する。
- ③ 見学した保護者は、次回からその学級の読み聞かせを引き継ぎ、2名の読み聞かせボランティアは、新たな学級で活動する。



まるで「読み聞かせ」という種を蒔きながら、一つ一つの学級を歩き続けるような、この地道な活動によって、現在ではボランティアは30名程まで増えた。全ての学年にボランティアがいて、学年の発達段階に応じた活動を行っており、子どもは読み聞かせや読書に対し、関心や意欲を高めることができた。

また、昨年度は「読書週間」に限定して実施していた全校児童対象の読み聞かせも、今年度はボランティアの存在により、年間を通して朝読書の時間に、さらに冬期間に入ってから中は休みにも行うようになった。1月に実施した読み聞かせ研修会には、現在活動していない保護者も参加するなど、保護者の関心も高まっている。読んでもらった本を、自分でも読んでみようとして手に取る子どもも見られるようになり、日常的に読み聞かせが行われることで、読書は着実に子どもの生活の一部になってきた。

〔子どもの声〕

いつも読み聞かせを楽しみにしています。おもしろい本を読んでもらうのがうれしいです。

おかげで前よりもっと本が好きになりました。とても感謝しています。長い本も集中して読めるようになりました。本当にありがとうございます。（2年生）

重点 2 学校図書館の復活 ～再生から 活動へ～

4年間の空白の後、復活することになった学校図書館。これまで廊下に置かれた本棚と、図書準備室のカウンターで貸し出しのみ行っていた実態を考えると、子どもの読書意欲の向上や本校の読書活動の充実に向けて、教職員や保護者からは大きな期待が寄せられていた。今後の児童数の推移を考えると完全復活とはならないまでも、子どもたちのため、教職員で本棚に本を並べ、年度始めに開館した。しかし、どのような環境整備が必要なのか、そのために何をすればよいのか、全くの手探り状態であった。

そこで、学校図書館アドバイザー中山公子氏から、専門的・先進的な情報と貴重なご助言をいただきながら、図書館ボランティアの3名の保護者の協力を得て、子どもにとって、本に関心をもてる、そしてそこで過ごしたくなるような学校図書館づくりを目指し、再度取り組みを始めた。学校図書館の復活に当たっては、これまで無かった学校図書館だからこそ、思い切った環境づくりが可能となった。

①図書館の再生

取り急ぎ開館した学校図書館であったが、7月に一度全ての図書を棚から出し、リニューアル作業に取りかかった。「子どもが手に取りそうな本は?」「並べ方は?」と工夫して図書館を再生させた。夏休み前、多くの子どもが驚きや喜びの声を上げながら、本を手にとっていた。



〔子どもの声〕

- ・今年図書館ができて、本の種類も、今まで読んでことがない本もすごく増えたから、とてもうれしかった。(3年)
- ・図書館ができたから、たくさん本を読みに行くことが多くなりました。もともと本が好きなので、うれしい。(3年)

②動き続ける図書館

図書館ボランティアの皆さんには、館内の環境の維持とともに、子どもと直接接する役割も担っていただき、「人がいる」温かい図書館づくりに努めた。

また、掲示物やコーナーの設置、本の表紙が見えるように置くなどの工夫を年間を通じて行い、常に変化をもたせることで「動き続ける学校図書館」を目指した。

【修理と維持】

傷んだ本の修理、本の整頓など、再生をとげた学校図書館の環境が常に維持されるよう、館内を点検し、定期的に整備を行った。

【おすすめコーナー】

季節やその時期の学習に合わせて本を選び、子どもが手に取って読むことができるよう、「おすすめコーナー」を設置した。図書館の環境に変化をもたらすと同時に、子どもに「読ませたい本」を紹介する有効なスペースとして活用することができた。

【子どもへの対応】

長期休業前の貸し出しや返却のお手伝いのほか、「どんな本を読んだらよいか」など、子どもの相談にのったり、探している本の場所がわかるよう「図書館マップ」を作成して掲示するなど、子どものニーズに応える活動を行った。

〔子どもの声〕

図書館ボランティアのみなさん、いつも忙しいのに学校に来て「図書館マップ」などをわかりやすく書いてくれたり、「新しい本」コーナーを作ってくれたりしてありがとうございます。学校みんなが「本が大好き」になれるように、よろしくお願いします。(5年)



再生された学校図書館は、子どものもつ様々な興味や関心の受け皿となった。そして、図書館が常に動き続けることで、今、本校の図書館は、子どもが足を運ぶたびに新たな発見ができる、魅力を感じ続ける場所となっている。

重点3 読書活動の広がり ～学校から家庭へ、地域へ～

子どもの読書意欲の向上の継続には、学校生活という限られた時間だけでなく、読みたい時に本があるという、いつでも本と親しめる環境が必要である。そこで、家庭、地域と歩調を合わせて取り組むため、学校から積極的な発信に努めた。

【金曜読書】

読書習慣が家庭にも広がるよう、金曜日には本を借りるよう子どもに呼びかけた。「週末は親子そろって読書」という保護者の声も聞かれるようになった。

【図書館便り】

学校の読書活動について、保護者の理解と協力を得るため、「わくわく図書館」を発行した。

【交流センター】

地域にある交流センターに函館関係の本を置き、「中の沢文庫」として地域の方に公開した。



その他、各担任が出す学級通信やWebページからの情報発信、読み聞かせ研修会へのお誘いなど、学校全体で情報発信に努めた。子どもの読書活動の姿を伝えることでさらに家庭や地域の理解や協力を得ることができ、その結果、子どもの読書意欲のさらなる向上につながるなど、よい循環を生み出すことができた。

成果と課題

○成果

- 1 新しく動き出した学校図書館は、子どもの読書意欲の向上を確実に進めることができた。

※本の貸し出し状況

H21年度(5～3月) 3, 551冊

H22年度(5～1月) 4, 918冊

- 2 図書館ボランティアなど多様な読書活動に合わせて多くの方々にご協力いただいた。学校図書館の存続が不確定な本校にとっては、今後さらに重要になるのが「マンパワー」の存在であり、その土台を築くことができた。

- 3 図書館の立ち上げから環境整備までの過程を経験したことで、今後の図書館運営に活かすための多くの専門的な知識や先進的な情報をアドバイザーから得ることができた。

- 4 読書活動が、学力向上の方策の一つとして、読む力や聞く力等の育成と同時に、読み手と聞き手の交流から生まれる、豊かな心の育成にもつなげることができた。

●課題

- 1 学校図書館が再び無くなった場合の読書活動の推進にかかわり、子どもの読書への意欲を継続させるための全校的な取り組みが必要である。
- 2 次年度以降、読み聞かせボランティアの組織をさらに効果的・効率的に運営していくことが必要である。
- 3 家庭での読書をさらに啓発するため、「金曜読書」の推進と定着を図りたい。

【保護者の声】

今年の学校図書館の活動は、学校全体で取り組んで活気があり、とてもよいと思います。読み聞かせにも参加しましたが、子どもたちが楽しみにしていて、喜んで聞いてくれるので、とてもやりがいがあります。高学年の子どもも静かに集中して聞いてくれ、読書への関心が高まってきていると思います。

豊かな心と学びを育む学校図書館～読書を支える環境作り～

函館市立北美原小学校

学級数 22学級 児童数 716名 昭和54年開校

学校の特徴

函館市の北部に位置し、旧亀田地区の人口急増に伴う函館市立中央小学校の過密解消のため、中央小・赤川小・桔梗小の通学区を調整して設立開校された。平成4年度に増築工事がなされ、最大28学級体制の校舎となった。

保護者の教育への関心度は高く、学校へ寄せる期待も大きい。特別支援学級はないものの、余裕教室を活用した支援教室を設置し、各週ごとの校内支援計画を作成して、個別の支援が必要な児童に対する支援を、全教職員で計画的に行っている。

読書に対する児童の意欲は高く、毎年、市内・道内の読書感想文コンクールで多数入賞している。

学校図書館の状況と課題

【 施設・環境 】

図書の整備率が50%程度であるにもかかわらず、書架はほぼ満杯状態にある。そのうえ、ほとんどの書架は作り付けのため移動ができず、書架を増やすスペースもない。

【 蔵書 】

平成21年度末の蔵書冊数5,597冊。整備率50.1%。

【 運営 】

蔵書をデータベース化し、パソコンによる貸し出しを行っている。児童数が多く、毎日の中・昼休みの間に貸し出し・返却を終了できないことがあるため、2学年毎に曜日を指定している。また、学校全体の取り組みとして、毎日、朝読書を行っているが、学級により取り組みのばらつきが見られる。

【 課題 】

- ・今後購入した蔵書をどのようにして納めればよいか。
- ・パソコンとバーコードリーダー2組による貸し出しが可能となる時まで、子どもたちの読書活動が停滞しないようにするにはどうしたらよいか。
- ・図書館ボランティアとの連携をどう進めたらよいか。
- ・読書や図書館に対する教職員間の共通理解を図るにはどうしたらよいか。

重点1 子どもたちの読書意欲を支えるための環境整備について

1 購入した図書をどのようにして収めたらよいか

22学級の本校の蔵書の標準冊数は11,160冊。現在の整備率が50.1%であるにもかかわらず、図書館内の書架は古い本も含めて満杯の状態になっており、今後、購入した本をどこに収めたらよいのか、なおかつ、使いやすく配置するにはどうしたらよいのかということが大きな悩みであった。

学校図書館アドバイザーからは、「古い本は廃棄するか、もしくは、必要なときに使えるようにカウンターの下などに入れて、書架にゆとりを作るとよい」というアドバイスを

いただいた。

そこで、夏休み中に、本校職員と学校図書館ボランティアとで新刊本の受け入れ作業を終えてから、図書委員会で国語辞典や漢字辞典の配置を変えたり、古い百科事典類などをカウンター側に移動したりして、書架の余裕を生み出すことができた。また、カウンター後方にあって以前は貸し出しカードを入れていた引き出しを取り払い、用務員さんに補強してもらって、新たな本棚を作った。

その結果、百科事典類は新たな本棚に収まり、たまに必要なときにすぐに活用してもらえるようになっていた。また、本来の書架に余裕ができたおかげで、本の表紙を見せた配架(面出し)ができ、図書館全体が明るくなった。子どもたちは、面出ししておいた本を手にとって借りていくことが多くなった。

また、ボランティアや図書委員と相談の結果、「文学」の棚だけ書名の五十音順に並べ替え、ボランティアの方々に仕切り板を作ってもらい設置したところ、子どもたちが書名で本を探しやすくなった。



2 入ってみたいくなる図書館にするには

図書館は3階にあり、1階にいる低学年からは遠く感じるだろう。そのうえ、布張りの椅子は破れ、人気のある本はぼろぼろである。子どもたちが入ってみたいくなる図書館にするには、まず、きれいな図書館にすることだと考えた。

ボランティアの方々が最初に手を付けたのは、本と椅子の補修だった。かわいいプリント柄の布で補修された椅子は、その後もきれいなままだである。破れた本は、図書委員が見つけるとすぐに持ってくるようになり、委員の子どもたちの取り扱いの意識も高まった。

秋には紅葉、11月からはクリスマスムードいっぱいの、ボランティアによる季節ごとの飾りも、子どもたちの目を引いた。ちなみに、12月から図書委員はサンタクロースとトナカイに変身して貸し出しを行った。低学年は大喜びだった。



秋のイメージの掲示

休み時間の貸し出し



重点2 校内における読書活動の活性化

1 「読書が好き」を支えるために

貸し出しや返却以外にも、休み時間に図書館を利用する子どもたちがいる。本棚から本を取り出し、一人静かに本を読む子ども、友達と1冊の本を囲んで楽しそうに見ている子どもと、その楽しみ方は様々である。行事の関係で休み時間が短いときでも、図書館へやって来る子もいる。図書館が自分の居場所になっている子どもたちなのだ。そんな子どもたちの「本が好き」という気持ちに応えるために、どんな活動をしていったらよいだろうか。

そこで、10月中旬から、1年生への貸し出しを開始した。また、朝読書の時間に図書委員が1・2年生の学級に紙芝居や絵本の読み聞かせに行き、喜んでもらえたようだった。図書委員も手応えを感じており、「来年度もやりたい」と意欲をもっている。また、夏・冬休みに向けての本の貸し出し冊数を、例年2冊までのところを3冊までに増やした。その結果、週1・5日しか貸し出しの日数がないにもかかわらず、1年生に2か月で884冊の貸し出しを行うことができた。

2 貸し出し・返却をスムーズに

子どもたちは、とても意欲的に本を借りにきているが、データベース化しているパソコン1台では休み時間内に対応し切れなかった。とにかく、たくさんの子どもたちが読みたい時に読みたい本を借りることができるということが大切だと感じていた。アドバイザーからは、代本板の使用をやめ、返却本はカウンター横にでも置いて、図書委員が本棚に戻すようにしたらどうかというアドバイスをいただいたが、活動時間が確保できず、今年度はこのまま継続することにした。

2学期中に、パソコンとバーコードリーダーをもう1組準備できたため、ボランティアの方々も貸し出しについてくれたことによって、スムーズに進むようになった。

3 読書月間にはこんなことを

11月22日から12月17日までが今年度の本校の読書月間だった。この期間に、図書委員会・教職員・学校図書館ボランティアの会による活動を計画した。

まずは、朝読書を全学級で行うこと、可能な限り先生方にも一緒に読書をしてもらうことを提案した。朝の放送でも、朝読書の始まりを呼びかけた。

図書委員会では、低学年への読み聞かせのほかに、読書ポスター作りと平和集会を意識した「平和」に関する本のコーナー作りを行った。先生方には、「思い出の本コーナー」として、自身の思い出の本や子どもたちに読んでもらいたい本などを紹介文付きで図書館に展示した。また、各学年で国語の時間の1時間を設定し、学校図書館ボランティアの会には、平和集会に合わせて「平和」に関する本の読み聞かせを3日間お願いした。さらに、函館地区読書感想文コンクール優良賞の14名の感想文を昼の放送で朗読してもらった。



重点3 読書活動や学校図書館における教職員・ボランティアの連携

1 読書を取り入れた学習活動の広がり

文章を読むことは、学習の基礎である。朝読書の他にも、各学年で発達段階に応じた様々な読書活動に取り組んでいる。

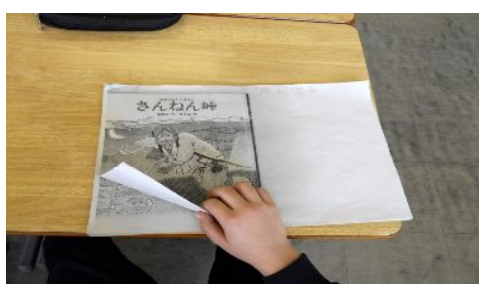
1年生では、「読書の木」の取り組みにより、子どもたちの読書意欲を喚起してきた。また、読書月間に10回近く、図書館での読書時間を設定していた学級もあった。2年生では、保護者による読み聞かせが行われている。また、国語の学習では、中央図書館の団

体貸し出しを利用して100冊もの絵本を借り、意欲的に学習に活用していた。さらに、1・2年生には学び方指導(利用指導)を行った。3年生では、担任による読み聞かせや、図書紹介カード作りと発表を行ってきた。また、積極的にアニメーションの授業法を取り入れ、「読書クイズ」作りを行ってきた。物語を読み深め、クイズ作りに取り組む学習を行った。5年生では、ブックトークを行い、宮沢賢治の本を中心に意識的に文学作品を読むように取り組んでいった。



「おはなしびじゅ
つかん」の学習

図書紹介カード



読書クイズ
「さんねん峠」



2 ボランティアとの連携

本校では3名のボランティアが活動してきた。図書館担当者との打ち合わせ時間はほとんどないため、アドバイザーの助言により「連絡ノート」を使ってきた。お互いに、今日の作業やこれからやろうと考えていることなどを書き、意志の疎通を図る手立てとしてきた。

成果と課題

○ 成 果

- 1 学校図書館ボランティアの方々が図書委員と一緒に貸し出しを行ったことで、本や資料を探している子どもに、すぐに対応できる図書館を実現できた。
- 2 学校図書館ボランティアの方々にも本について尋ねるなど、子どもの意識が「知りたいこと・読みたい本」に向かって高まっていくことができた。
- 3 教職員の中では、朝読書が読書の習慣付けや学習に向かう姿勢に結びつき、有効であることが確認された。
- 4 学校図書館ボランティアの会や図書委員会が読み聞かせを行ったことにより、子どもたちの読書意欲につながった。
- 5 図書館の整備により、読書環境が格段によくなった。
- 6 教職員の読書や図書館に対する関心が高まり、図書館や図書資料の活用頻度が高くなった。

● 課 題

- 1 次年度以降のボランティア活動の継続について検討が必要である。
- 2 図書館担当者が図書館にいる時間を確保するための工夫が必要である。
- 3 今後、さらに増加していく蔵書の有効な活用の仕方について検討が必要である。

生徒が読書に親しむ環境を目指して

函館市立桔梗中学校

学級数 12学級

生徒数 413名

昭和59年開校

学校の特徴

校訓「響生 ～響かせ合おう心と体を～」

市内では一番歴史の新しい学校である。横津岳の裾野に広がる、かつて「桔梗野」と呼ばれた丘陵地帯にあり、創立当時、学校周辺は畑作地帯で静かな環境であったが、昨今は宅地開発や大型店舗の出店、さらには高規格道路の整備が進み、学校周辺の環境が大きく変わっている。生徒は明るく、素直で活動的であり、朝読書にも積極的に取り組んでいる。読書の関心は全体的に高い。

学校図書館の現状と課題

【 施設、環境 】

- 生徒数に対して、図書館が狭く、本棚や閲覧するための机・椅子が足りない。

現在の机・椅子の数では1学級全員が座れない状態であり、大きな移動式本棚が4つあるため、閲覧スペースが少ない。

【 蔵書や図書資料 】

- 分類が乱雑で、必要な本を探しにくい。何年も図書の整理が行われていないため、資料としても古く、生徒が手にしない本が多い。

本棚と本の大きさが合っていないため、本を横にして入れたり、分類表示はされているものの明確ではない。また、本に付けている分類シールは日が当たって焼けてしまい、文字が薄くなって見えなかったり、分類番号が間違っているものも多くある。

【 運営 】

- 昼休みに開館しているが、学年別使用のため、使いたいときに使用できない。

生徒指導上、平成21年度の2学期から昼休みの利用を学年別の利用としたため、利用したいときに使用できない状況にある。

【 生徒の利用状況 】

- 図書館利用のルールが徹底されず、図書館が本を読む雰囲気になっていない。

朝読書が習慣化されているが、図書館の貸し出し数は少なく、図書館に来た生徒が落ち着いて本を読む雰囲気ではない。朝読書用に各学級に学級文庫を配置している。

【 生徒の委員会活動 】

- 文化委員が図書館の運営を行っているが、学校祭の実行委員を兼務しているため、前期は昼休みの当番活動以外の活動が難しい。貸し出しのルールやきまりが統一されていない。全校生徒が本に親しむための掲示の工夫や呼びかけが少ない。

【 課題 】

- ・カウンターや移動式本棚の配置の工夫
- ・図書の整理と本の配架
- ・分類番号の確認と分類シールの付け替え
- ・文化委員の活動の活発化
- ・学年別利用から自由に利用するための、図書館の利用指導の徹底

重点１ みんなが利用しやすい図書館へ ～図書館の環境整備～

これまでは、隣との間がない状態でやっと３６名分の座席が確保できる状態であり、ゆったりと本を読んだり、資料を見ながらノートに書いたりすることはできなかった。

１学級の生徒が図書館に入って学習できる環境にするため、机や本棚、カウンターの配置について、学校図書館アドバイザーに相談し、一緒に考えてもらった。

まず、カウンターの位置を少しずらし、大きな移動式本棚の１つを空き教室へ移動。空いたスペースに違う場所で使われていた図書館の机を戻した。

もう一つの移動式本棚はカウンター横に置き、書庫として使用。移動した本棚には、古くなった全集などを入れて保管することとした。



閲覧スペースが広がった図書館

重点２ 探している本が見つかる図書館へ ～配架・分類の工夫～

カウンターや机・椅子の配置を変えた後、学校図書館アドバイザー、学校図書館ボランティアの保護者の方と一緒に夏休みを利用して、図書の整理を行った。

図書の整理はまず、本棚に入っている本を分類ごとに机の上に出し、資料として古いもの、本自体が傷んでいるものなどは別のスペースに一度寄せた。

その後、どこにどの分類の本を入れるか図書館の本棚を全体的に見て配架を決め、戻す作業を行った。



整理前の本棚（分類表示もなく、雑然としている）



整理後の本棚（分類表示を行い、面出しをした）

本棚に戻した後には、分類表示をつけたり、テーマ別にまとめた。アドバイザーからは、

- ・生徒たちの視線の位置に合わせて本を配架する
- ・本の表紙が見えるように面出しする



などを教えていただいた。

また、改めて分類してみることで、本校には第4類自然科学の分野の本が不足していること、同じ本が2冊あることがわかった。後日、4類の本を中心に購入して充実させ、2冊ある複本は、学年文庫として文化委員が選び、移動式本棚に載せて廊下に置いていつでも手にすることができるようにして活用している。

分類表示などを見やすく表示。どこにどんな本があるのかわかりやすいだけでなく、図書の整理もしやすくなった。



2学期が始まり、最初は本の位置や机の配置が変わり、とまどっていた生徒たちだったが、「すごくきれいになった」「うちの学校にこんな本があったんだね」「机が多くなって読みやすくなった。」という声が多く聞かれた。



学校図書館ボランティアの方々には、週1～2日昼休みに、文化委員の生徒とともに本の貸し出しの手伝い、本の修理や分類ラベルの張り替えなどを行っていただいた。これまで分かりづらく、よく見えなかった分類シールが、新しいものに張り替えられ、委員の図書整理も容易になった。



生徒と一緒に本の貸し出し

本の修理



重点3 文化委員の活動の活発化

本校の文化委員は、前期は、学校祭の実行委員でもあり、その仕事は活動の中心であった。そのため、図書館の仕事は、昼休みの当番に限られていた。しかし、今年度から毎朝行っている朝読書の時間に教室の前に出て呼びかけたり、朝読書用に置いている学級文庫を管理したりと、仕事の幅を広げてきた。

また、後期は、読書週間に合わせて、先生方が中学生の時に読んでいた本やおすすめの本などを書いてもらい、掲示物を作成した。

この企画には、本校の教員全員が協力し、様々な分野の本が紹介されることとなった。また、この掲示物を見ながら、「この本どこにあるの?」「この本私も読んだよ。とてもおもしろかった。」と図書館に来て話す生徒も見られるなど、生徒の読書活動への興味・関心を喚起するきっかけとなった。

先生方のお薦めの
本を掲示



成果と課題

○ 成 果

- 1 今年度、推進モデル校となり、学校図書館アドバイザーやボランティアの方々の方々の力をお借りして、図書館の環境を変えることができた。明るく、使いやすい図書館になったことで、読書の環境が変わり、生徒たちの意識も変化し、さらには教職員の図書館に向ける目も少しずつ変わってきたように思う。
- 2 特に、夏季休業前の貸し出し冊数は前年の2倍近くとなったり、図書館に読書を楽しむために足を運ぶ生徒が増えてきたことなどは大きな変化である。
- 3 中学校では、生徒指導上の課題もあり、図書館の利用指導については、配慮が必要である。

昨年度まではマナーが徹底されず、年度途中から学年別使用となってしまうが、今年度は4月当初から、図書館の利用については、「学校の図書館も函館市の中央図書館を使用するときのマナーと同じである。」という



冬季休業前の本の貸し出しの様子

方針のもと、全教職員で指導してきた。本校のほとんどの生徒が中央図書館を利用していたので、これについては、比較的早く浸透していったように思う。現在、各学年とも図書館の利用の仕方は改善されてきている。

● 課 題

- 1 図書の整理と分類シールの付け替えを継続して行う必要がある。
- 2 生徒の読書意欲を喚起するため、新刊図書の紹介の仕方や掲示板の活用を工夫していきたい。
- 3 図書館の利用指導を徹底するとともに、読書指導の充実を図っていきたい。

全学年がいつでも利用できるようにするためには、生徒指導上の問題など、今後さらに考えていかなければならない課題も多く、教職員全員のかかわりが必要となる。

また、生徒一人一人の読書が様々な分野に広がっていくような読書指導を考えていかなければならない。この1年間の取り組みで終わることなく、継続して読書に親しめる環境を整え、生徒がもっと読書に親しむことができるように努めていきたいと考えている。

市内の小・中学校の担当者から寄せられた学校図書館の運営にかかわる疑問について、学校図書館アドバイザーに聞いてみました。

Q1 図書の分類の仕方で迷うものがあります。

分類・整理の仕方でコツがあれば教えてください。

- ・ 分類は本の内容によって、どのグループに所属させるかを決めることです。
- ・ そのためには自校の図書館の分類基準が決まっていなければなりません。自校で使う適用表を決めたら、以後、必要に応じてそれを修正していくようにします。
- ・ 迷うものこそ、分類基準を積み重ねておく必要があります。
一般的な分類基準の主なものは次のようになります。

- 1 図書は主題で分類し、次に形式で分類する。
- 2 2つまたは3つの主題を並列的に扱ったものは、最初の主題か最も重点の置かれた主題へ。
- 3 叢書・全集類は、個人全集と体系的に編集されたものは一括する。
しかし、新書など大分類を網羅しているものは、主題により分散させた方が利用しやすい。
- 4 伝記の中では、文学と芸術はその主題に分類する。
したがって、ショパンは伝記28ではなく音楽76に分類される。

- ・ 分類はその図書の内容を表します。しかし、「牛」について書かれた本は、動物48か牧畜64か迷うところです。こういった場合、分類そのもので統一させようとするより、棚で「牧畜・ペット」を動物のそばに置くようにします。図書館の蔵書数から考えると、こういった分類順ではない配架の工夫も効果的です。

Q2 図書購入の際、選書について悩んでいます。

子どもの数が少ないため図書整備費も少なく、限られた予算の中でどんな本を購入すべきでしょうか。

- ・ どの分野の本がどのくらいあるか、図書館の本をざっと確認しましょう。
足りない分野が優先です。
- ・ 学習計画に必要な本はそろっていますか。学校全体で確認したら、単年度では無理でも複数年での購入計画を考えてみてください。
- ・ 購入計画と出版状況は一致するとは限りません。
計画と結果を記録として残しておきましょう。
- ・ 子どもたちのリクエストはたくさん本のある分野に集まります。本のない分野はリクエストありません。
絶対という本はなく、学校の状況にあわせて考えていくのがベストだと思います。

Q3 子どもが利用しやすい配架のポイントを教えてください。



- ・ 子どもの目の位置で配架を見てください。
高い書架の上段は低・中学年には見えません。
- ・ どこに、どんな本があるかが分かるように、表示を大きくしてください。表示は館内マップのほか、書架、棚にも必要です。

表示に基づいて整理した中学校の棚

子どもの目線に合わせて整理した小学校の棚



- ・ 本の表紙を見せましょう。
背表紙の文字ではなく、表紙の絵や写真は一番分かりやすい案内表示です。特に、昆虫・動物・乗り物・料理などは館内を楽しい雰囲気になります。
- ・ 部屋全体を「ものがたり系」「社会科学系」「自然科学系」で考えて、配置してみてください。それぞれの図書の量と、入口や柱で区切られる棚の量や大きさを考え、分類の順番通りにこだわらず、ひとかたまりになるようにすることで利用しやすくなります。

Q4 狭い図書館での有効な環境づくりのポイントを教えてください。

- ・ 部屋のレイアウトを見直してみてください。
デッドスペースになっているところはありませんか。
動かせないものと動かせるものを組み合わせ、窓の下、入口付近、柱付近などメジャー片手に測ってみてください。ちょっとしたスペースも、図書館が狭ければ、貴重です。



- ・ 一人用の机や椅子でも、布や箱を利用して本の展示台にすることで、楽しい雰囲気をつくることができます。展示する本はテーマを表示したら3冊程度でも十分です。

- ・ 狭いと少しでも多く置きたくなりますが、図書を厳選しましょう。
利用されていない本には場所を空けてもらい、表紙を見せて利用しなくなるようにしましょう。



- ・ 最終手段として廊下の利用も考えてみてください。
新刊のブックケースの展示や利用案内など、図書館の前から、図書館にしていましょ

Q5 図書の修理の仕方について教えてください。

- ・ 本格的な製本ではなく簡単な補修方法です。



ボランティア研修会
本の補修について講習

ページの脱落

ボンドを爪楊枝などを使って接着面に付け、ページが飛び出さないように貼り付けます。

ページが破れた

メンディングテープかページヘルパーを貼る。セロテープは変質するのでどんな個所でも厳禁です。

背表紙と中身が取れかかっている

ボンドで固定し、のどの部分に製本用の白テープかフィルムコートを切って貼ります。

本の背がとれてしまった

製本用のテープを張って補強して背文字をペイントマーカーで書くか、ラベルプリンターなどで印字したものを貼り、ブックコートフィルムでカバーする。

あとと便利な製本用品

ページヘルパー、ブックコートフィルム、製本テープ、千枚通し、木工用ボンド、ラベルプリンター、ペイントマーカー（太字と細字）など

学校用品のカタログなどに載っています。

- ・ 手間をかけて修理する価値があるか、除籍か、判断することも大事です。

Q6 図書がどの程度傷んだら廃棄すべきなのかわかりません。

廃棄の判断や目安を教えてください。

- ・ 背表紙がはずれたり、ページが落ちたりしたとき、修理するか廃棄するか迷うものです。人気のある本なら思い切って買い替えも考え、痛みが軽易で内容も新しく、Q5の補修方法程度でいいのであれば補修へ。それ以外は「寿命」と考えましょう。
- ・ 背文字が消えたり色あせていても、カバーを取ったり、ペイントマーカー（油性マジックは消えます）で書くなどの簡単な補修で、本は見違えるようになります。
- ・ それとは別に、内容の古いものは、例え傷んでいなくても棚からはずしましょう。特に歴史・地理、科学・医学、情報（IT）関係は注意が必要です。
- ・ 文学関係でも印刷技術の関係で古い全集などは読みにくく、棚から除いた方がいいと思います。子どもたちにとって平成（1988年）以前の本は活字そのものが読みにくいのです。資料として保管するなど書庫入りとしましょう。

※ 函館市学校図書館図書廃棄基準（26ページをご覧ください。）

Q7 学校ではあまり活用されていないものの、捨てるにはもったいない古い全集や資料などの取り扱いは、どうしたらよいのでしょうか？

- ・ もったいない理由を考えてみましょう。

- 1 本はしっかりしているが、発行年が古い。
- 2 利用されなかったので本が傷んでいない。
- 3 企業からの寄贈などで、学校の選書としてはそぐわない。

などが考えられます。

- ・ **1の場合**

古い本が棚にたくさんあると新しく購入した本が目立たず、子どもが自分の読みたい本を探すときの邪魔をしていることがあります。また活字も読みにくい古い書体です。

書庫入りか（箱詰めを含む）、職員用とするか除籍を検討した方がよいでしょう。

- ・ **2の場合**

内容をアピールすることを検討しましょう。薄い資料でしたらファイルをつくるとか、ビデオレンタル店でしているような厚手の箱に内容を書いて表示するなど。

- ・ **3の場合**

別の適切な場所（PTA文庫など）を見つけるか、思い切って除籍しましょう。

- ・ 古いだけで価値はありますが、学校の図書館には限りがあります。生き生きとした図書館をつくるためには思い切ることも大切です。



図書館内に閉架図書の棚を設置。準備室があれば箱詰め。



Q8 学級文庫を作っています。

配本に当たってどんなことに気を付ければよいでしょう？

- ・ 学級文庫は、学校図書館や図書館からの直接的な管理を離れるので、管理上、運営上の責任者などをはっきりさせておきましょう。
- ・ ある程度まとまった冊数を必要とするため、本館である学校図書館などの一般利用に不便をきたさないよう配慮が必要でしょう。
- ・ 利用状況の把握に努め、内容が適切であったか、活発に利用されたかなど今後の貸し出しの参考にしましょう。
- ・ 学級文庫から図書館の利用につながるような案内をすることで、本の世界が広がります。
- ・ 読む力には差があります。学年別にこだわらず揃えてみるのもいいと思います。



Q9 国語の時間に、文学教材を学習します。

作者の他の作品をたくさん準備したいと思います。

学校図書館の本だけでは、足りないのですが…。

- ・ 学級や学年で読書活動に取り組むときには、たくさん本が必要ですね。
家にある場合は持ってくるよう、子どもに呼びかけたり、自校の学校図書館だけでなく、他校と互いに貸し合う方法もあります。
また、中央図書館の団体貸し出しを活用することもできます。教科の年間指導計画を把握して、計画的に利用するのもよいでしょう。

函館市中央図書館 **団体貸し出しの利用のご案内** (平成21年8月改訂)

■対象となる団体

- ・ 市内の学校、幼稚園、保育園 ・ 市内の公民館、児童館等の公共施設
 - ・ 読み聞かせグループ、子ども文庫等 (市内で活動している団体)
- ※過去6か月以上継続して活動している団体であること

■貸し出し冊数・期間

- 学校組単位で100冊以内※1月以内 ※ 延長については相談ください
幼稚園、保育園組単位で100冊以内
※調べ学習のため貸し出しを受ける場合は1テーマ10冊以内
読み聞かせグループ100冊以内

■登録方法

- ・ 団体の概要等がわかる資料を添えて、団体利用者カード交付申込書を提出してください。(申請者名は校長、園長など代表者名でご記入ください)
- ・ 学校、幼稚園および保育園は組単位でカードを作成することができます。
(団体名は〇〇小学校〇年〇組など組単位でご記入ください)

■貸し出し・返却方法

- ・ 貸し出しを受けようとする日の7日前までに、中央図書館へご連絡ください。
- ・ 受付場所は個人貸し出しと別になります。総合案内カウンターあてお申出ください。
- ・ 図書の選定・運搬は利用者ご自身に行っていただきます。
持ち運び用の箱や袋を忘れずにお持ちください。

■注意事項

- ・ 調べ学習の場合、選択したテーマに適した資料が少ないことがありますので、事前に図書館職員へご相談ください。
- ・ 現在貸し出し中の資料の予約や購入希望は受付しません。
- ・ 利用する責任者は、館長の指示に従い、責任をもって図書館資料の保管運用に当たってください。
- ・ 団体が廃止となった場合は、速やかに届出し、利用者カードを返還してください。

【お問合せ先】函館市中央図書館 函館市五稜郭町26番1号

電話：35-5500

ファックス：35-5524



函館市学校図書館図書廃棄基準

本市では、平成6年度から文部省の「学校図書館図書整備新5か年計画」に基づき「学校図書館図書整備事業」として整備計画を策定し別枠予算を計上しながら小中学校の図書館図書の整備を進めてきている。

これにより、これまで毎年度各学校で蔵書冊数の増冊に向け購入をしているが、内容の古いものや装丁の傷みが激しく使用に耐えられない状態にあるもの等を廃棄処分してきており、蔵書冊数の整備率が計画を下回っている状況にある。

こうしたことから、今後も増冊に向けて整備計画を推進するにあたり、適正な図書の管理を行うため、図書廃棄について一定の基準を設定するものである。

○ 廃棄の観点

- ① 内容からみた新鮮度…特に社会科の統計や地理、歴史の記述内容が古くなった場合。
- ② 装丁の傷み具合…使用に耐えられないほど装丁に傷みが生じている場合、まず修理して利用を図るが、それにも耐えられない場合。

Ⅰ 一般基準

次の各項のいずれかに該当する図書は廃棄の対象とする。

- 1 形態的にはまだ使用に耐えうるが、記述されている内容・資料・表記等が古くなり利用価値の失われた図書。
- 2 新しい学説や理論が採用されていない図書で、史的資料としても利用価値の失われた図書。
- 3 刊行後時間の経過とともにカラー図版資料の変色が著しいため、誤った情報を提供することが明白になった図書。
- 4 利用頻度の著しく低い複本で保存分を除いた図書。

Ⅱ 種別基準

次の種別に属する図書は、一般基準に加えてそれぞれの種別ごとの各項に該当する場合、廃棄の対象とする。

- 1 百科事典・専門辞典
 - ① 刊行後10年を経ているもので、補遺が刊行されていない図書。
- 2 ハンドブック・要覧
 - ① 新版が刊行され利用価値の失われた旧版図書。
- 3 伝記
 - ① 新資料の発見等により被伝者について評価が著しく変わった図書。
- 4 地図帳
 - ① 刊行後5年を経ているもので、記載地名等に変化が生じた図書。
 - ② 歴史地図帳は、刊行後10年を経ているもので、歴史学研究成果が取り入れられていない図書。
- 5 旅行案内書

- ① 刊行後３年を経ているもので、現状にそぐわなくなった図書。
- 6 地誌
 - ① 刊行後５年を経ているもので、現状にそぐわなくなった図書。
- 7 法律書・法令書
 - ① 刊行後３年を経ているもので、主要な法律・法令の改正により、現状にそぐわなくなった図書。
- 8 人権関係書
 - ① 記述内容に人権擁護上問題であることが明らかとなった図書。
- 9 政党関係書
 - ① 刊行後３年を経ているもので、政党の現状を理解するのにそぐわなくなった図書。
- 10 時事問題関係書
 - ① 刊行後３年を経ているもので、現状にそぐわなくなった図書。
- 11 学習参考書
 - ① 刊行後３年を経ているもので、学習の現状にそぐわなくなった図書。
 - ② 「学習指導要領」準拠図書で、「学習指導要領」の改訂により学習事項やその取扱いが変わった図書。
- 12 就職・受験内容書
 - ① 刊行後２年を経ているもので、現状にそぐわなくなった図書。
- 13 技術書・実験書
 - ① 刊行後３年を経ているもので、技術・実験についての説明が古くなった図書。
 - ② 記述内容に安全上問題であることが明らかとなった図書。
- 14 公害・環境問題関係書
 - ① 刊行後５年を経ているもので、最近の研究成果が取り入れられていない図書。
- 15 料理・服飾関係書
 - ① 刊行後３年を経ているもので、新しい素材・技術・デザイン・流行等が取り入れられていない図書。
- 16 スポーツ関係書
 - ① 刊行後５年を経ているもので、新しい種目・ルール・技術・用具等が取り入れられていない図書。
- 17 辞典
 - ① 語義・語源・用語等の記述に重大な誤りが発見された図書。
- 18 翻訳書・翻案書・抄訳書
 - ① 刊行後に優れた翻訳書が出版された場合の旧翻訳書。
 - ② より完全な翻訳書が出版された場合の旧翻案書・旧抄訳書。

Ⅲ 廃棄の対象としない図書

次の図書は原則として廃棄の対象としない。①年鑑 ②白書 ③郷土資料 ④貴重書

<運用上の留意事項>

- ① 図書の廃棄にあたっては、校内に「図書廃棄委員会」などを組織して幅広く各教科担当教員の協力を求めたり、廃棄図書リストを作成して検討するなど慎重に行うこと。

No.	小学校	題 名	作 者	No.	中学校	題 名	作 者
101	弥生	耳の聞こえない子がわたります	マーリー・マトリン	201	西	きみの友だち	重松清
102	青柳	パパとミッポの星の3号室	田部智子	202	潮見	サーティーナイン・クルーズ(全10巻)	リック・ライオダン他
103	あさひ	ねずみのかいすいよく	山下明生	203	宇賀浦	一瞬の風になれ(全3巻)	佐藤多佳子
104	中部	怪談レストランシリーズ	怪談レストラン編集委員会 責任編集 松谷みよ子	204	凌雲	霧のむこうのふしぎな町	柏葉幸子
105	北星	はだしのゲン	中沢啓治	205	五稜	空想科学読本	柳田理科雄
106	八幡	怪談レストラン1～50巻	怪談レストラン編集委員会 責任編集 松谷みよ子	206	大川	ISPYミッケ(ミッケシリーズ1～8)	文ジーン・マルソーロ/訳糸井重里 写真ウォルター・ウィック
107	万年橋	人形は月夜にほほえむ	斉藤洋	207	港	海辺のカフカ	村上春樹
108	港	怪談レストラン	怪談レストラン編集委員会 責任編集 松谷みよ子	208	光成	キャッツ〜ボッサムおじさんの猫と付き合う方法	T. Sエリオット
109	高盛	こびとづかん	なばたとしたか	209	的場	バズル	山田悠介
110	千代ヶ岱	本物の大きさ絵本 原寸大どうぶつ館	監修 成島悦雄 写真 前川孝行	210	深堀	ダレン・ジャン	ダレン・ジャン
111	中島	学習まんが人物館「シートン」他		211	湯川	ぼくらの七日間戦争	宗田 理
112	千代田	ヘレン・ケラー 三重苦をのりこえた奇跡の人	監修 社会法人東京ヘレン・ケラー 協会 加賀俊吉	212	戸倉	いま、中学生に贈りたい70の詩	木坂涼・水内喜久雄 編著
113	柏野	恐怖!都市伝説	平川陽一郎編	213	旭岡	深夜特急	沢木耕太郎
114	金堀	ねずみくんシリーズ	なかえよしを作 上 野紀子絵	214	亀尾	精霊の守人(第1巻)	上橋菜穂子
115	駒場	かいけつゾロリシリーズ	原ゆたか	215	鱒川	イチロー果てしなき夢 少年の想い遥かに	義田貴士
116	深堀	マジック・ツリー・ハウス	メアリー・ポー・オズボーン 訳 食野雅子	216	銭亀沢	オール1の落ちこぼれ、教師になる	宮本延春
117	日吉が丘	かわいそうなぞう	土家由岐雄	217	赤川	日本人の知らない日本語	蛇蔵&海野風子
118	北日吉	伝記の世界の作曲家2 バッハ	シャーロット・グレイ	218	桔梗	きみの友だち	重松清
119	湯川	いのちかがやけ!タイガとココア 障がいをもって生まれたアムールトラのきょうだい	あんずゆき	219	亀田	西の魔女が死んだ	梨木香歩
120	高丘	本物の大きさ絵本 原寸大 どうぶつ館	監修 成島悦雄 写真 前川孝行	220	桐花	アマルフィ	真保裕一
121	上湯川	千と千尋の神隠し	宮崎駿	221	本通	アバター	山田悠介
122	旭岡	柴犬・730日愛と勇気の旅 帰ってきたジロー	綾野まさ子	222	北	ハル2 哲学する犬からの伝言	クオン・デウォン
123	亀尾	怪談レストランより「オオカミのひかる目」	怪談レストラン編集委員会 責任編集 松谷みよ子	223	潮光	まるまれアルマジロ! 卵からはじまる5つの話	安東みきえ
124	鱒川	イチロー果てしなき夢 少年の想い遥かに	義田貴士	224	日新	神様のカルテ	夏川草介
125	東	ミッケ! みんなであそべるかくれんぼ絵本	文ジーン・マルソーロ/訳糸井重里 写真ウォルター・ウィック	225	恵山	オール	山田悠介
126	石崎	となりのトトロ	宮崎駿	226	楳法華	不登校、選んだわけじゃないんだぜ!	貴戸理恵・常野雄次郎
127	桔梗	サーティナイン・クルーズ1～6	リック・ライオダン	227	尾札部	賭けた恋(上・下)	ナナセ
128	中の沢	モチモチの木	斎藤隆介作 滝平二郎絵	228	臼尻	神去なあな日常	三浦しをん
129	北昭和	名探偵ホームズの冒険	コナン・ドイル				
130	昭和	かいけつゾロリシリーズ	原ゆたか				
131	亀田	森のいのち	小寺卓矢				
132	赤川	はだしのゲン	中沢啓治				
133	中央	怪談レストラン	怪談レストラン編集委員会 責任編集 松谷みよ子				
134	北美原	いのちのいろえんぴつ	豊島加純				
135	鍛神	ぼくにもそのあいをください	宮西達也				
136	神山	いのちのいろえんぴつ	こやま峰子				
137	東山	かいけつゾロリのチョコレート城	原ゆたか				
138	本通	もっと泣いちゃいそうだよ	小林深雪				
139	南本通	新・学校の怪談	常光 徹				
140	戸井西	昆虫	小池啓一				
141	日新	はだしのゲン	中沢啓治				
142	えさん	100かいだてのいえ	いわいとしお				
143	楳法華	学研 まんがでよくわかるシリーズ					
144	木直	わたしたちの帽子	高橋方子				
145	磨光	ちか100かいだてのいえ	いわいとしお				
146	臼尻	ぼくジョナサンエイズなの	ジョナサン・スウェイン、 シャロン・シーリング				
147	大船	せかいちのおきなうち	レオ＝レオニ 川俊太郎訳				

平成22年は国民読書年です。 函館市教育委員会では、この国民読書年

にちなみ、読書週間(10月27日～11月9日)に向けて、函館市内のすべての

小・中学校からおすすめの本を募集し「函館市小・中学校 我が校の一冊」

にまとめました。 読書活動は、言葉を学び、表現する力を高めたり、創造

力を豊かなものにしたりするために、とても大切なものです。ほかの学校の

おすすめの本を、あなたも読んでみませんか?



平成22年度 函館市立小・中学校 「我が校の一冊」

中学校 函 館 市 教 育 委 員 会

No.	中学校	題 名	作 者
201	西	きみの友だち	重松清
202	潮見	サーティーナイン・クルーズ(全10巻)	リック・ライオダン他
203	宇賀浦	一瞬の風になれ(全3巻)	佐藤多佳子
204	凌雲	霧のむこうのふしぎな町	柏葉幸子
205	五稜	空想科学読本	柳田理科雄
206	大川	ISPYミッケ(ミッケシリーズ1～8)	文ジーン・マルゾーロ/訳糸井重里 写真ウォルター・ウィック
207	港	海辺のカフカ	村上春樹
208	光成	キャッツ〜ボッサムおじさんの猫と付き合う方法	T. Sエリオット
209	的場	パズル	山田悠介
210	深堀	ダレン・ジャン	ダレン・ジャン
211	湯川	ぼくらの七日間戦争	宗田 理
212	戸倉	いま、中学生に贈りたい70の詩	木坂涼・水内喜久雄 編著
213	旭岡	深夜特急	沢木耕太郎
214	亀尾	精霊の守人(第1巻)	上橋菜穂子
215	鱒川	イチロー果てしなき夢 少年の想い遥かに	義田貴士
216	銭亀沢	オール1の落ちこぼれ、教師になる	宮本延春
217	赤川	日本人の知らない日本語	蛇蔵&海野凧子
218	桔梗	きみの友だち	重松清
219	亀田	西の魔女が死んだ	梨木香歩
220	桐花	アマルフィ	真保裕一
221	本通	アバター	山田悠介
222	北	ハル2 哲学する犬からの伝言	クオン・デウォン
223	潮光	まるまれアルマジロ！卵からはじまる5つの話	安東みさえ
224	日新	神様のカルテ	夏川草介
225	恵山	オール	山田悠介
226	樞法華	不登校、選んだわけじゃないんだぜ！	貴戸理恵・常野雄次郎
227	尾札部	賭けた恋(上・下)	ナナセ
228	臼尻	神去なあなあ日常	三浦しをん



平成22年は国民読書年です。

函館市教育委員会では、この国民読書年にちなみ、読書週間（10月27日～11月9日）に向けて、函館市内のすべての小・中学校からおすすめの本を募集し「函館市小・中学校 我が校の一冊」にまとめました。

読書活動は、言葉を学び、表現する力を高めたり、創造力を豊かなものにしたりするために、とても大切なものです。ほかの学校のおすすめの本を、あなたも読んでみませんか？



函館の子どもに読ませたい本50冊

函館市教育委員会

題名	作者	対象	題名	作者	対象
注文の多い料理店	宮沢賢治	小	遺跡がつぶやく 北海道のヒト	よしぎまさかず 吉崎昌一	小中
にじいろのさかな	マーカス・フィスター	小	時計坂の家	たかだのぼうこ 高橋方子	小中
きいちゃん	やまもとかつこ 山元加津子	小	生きてるだけで100点満点	ひのぼらしげあき 日野原重明	小中
だれもしらない	はいたけんじろう 灰谷健次郎	小	るすばん先生	みやかわ 宮川ひろ	小中
おこだてませんように	くすのきしげのり	小	ドリトル先生物語	ヒュー・ロフティング	小中
はな さき山	さいとうりゅうすけ 斉藤隆介	小	おとうさんのちず	ユリ・シュルヴィッツ	小中
おおきくなるっていうことは	ぶん なかがわ 文 中川ひろたか 絵 村上康成	小	二つの風の谷	ほんだ ゆうこ 本田優子	小中
アンデルセン童話全集	ハンス・クリスチャン・アンデルセン	小	日本人の知らない日本語	へびぞう うみのなぎこ 蛇蔵&海野凧子	小中
しやうたいし 縄文大使カックウとショウタのふしぎな冒険	かわしまやすお 川嶋康男	小	トイレの神様	ぶん 植村花菜 絵 とりごえまり	小中
かいいてい まんり 海底二万里	ジュール・ベルヌ	小	ミッケ! (かくれんぼ絵本) シリ	文 ジーン・マルソーロ 写真ウォルター・ウィック	小中
ほし おうじさま 星の王子様	サン＝テグジュペリ	小	心をそだてるはじめての伝記 10才	こころ	小中
コミック版 日本の歴史		小	いっぴきおおかみのそり	ふくだいわお 福田岩緒	小中
おしいれのぼうけん	ふるたたるひ	小	君たちはどう生きるか	よしのげんざう 吉野源三郎	中
たんじょうびのふしぎなてがみ	エリック・カール	小	アルジャーノンに花束を	だにえろ キース	中
エルマーの冒険	ルース・スタイルス・ガネット	小	ソフィーの世界	ヨースタイン・ゴルデル	中
ハンナのかばん	カレン・レビン・石岡史子	小	ポケットに名言を	てらましゅうじ 寺山修司	中
しょうねんしょうよめいさくらくご 少年少女名作落語 全12巻		小	風の旅	ほしのとみひろ 星野富弘	中
天才エリちゃん月へ行く	たけしたりゅうすけ 竹下龍之介	小	蜘蛛の糸・杜子春	あきたがけりゅうすけ 芥川龍之介	中
よい子への道	おかべりか	小	12歳からの人生論	たご あきら 多湖 輝	中
セミくんいよいよこんやです	くどう 工藤ノリコ	小	小さき者へ	ありしまたけお 有島武郎	中
おおきな木	シェル・シルヴァスタイン	小中	この世でいちばん大事な「カネ」の話	さいばりえこ 西原理恵子	中
ごたいふ満足 五体満足	おとけひろたか 乙武洋匡	小中	な はなのおき 菜の花の沖	しばりょうたろう 司馬遼太郎	中
もうどうけん 盲導犬キールの一生	いしくけんご 石黒謙吾	小中	おんな かいこう 女の海溝	もりもとさだこ 森本貞子	中
なかむろ しほ 中村さんちの志穂ちゃん	なかむろ ゆみこ 中村由美子	小中	じゅうごうけんひょうりゅうき 十五少年漂流記	ジュール・ベルヌ	中
ニッポンまるかじり (地理ブック)	ちり けんきゅうかい 地理研究会	小中	ぶとたのあいだ	こいずみよしひろ 小泉吉宏	中



きっと くりかえし
よみたくなるよ

たいせつなことを
おしえてくれる

ふしぎはなしに
わくわくどきどき

あなたのしらない
はこだてがここに...

じぶんが
なにをしたいのか
まよったときに

この「函館の子どもに読ませたい本50冊」は、読書週間(10月27日～11月9日)に向けて、函館市内の小・中学校に通っている子どもたちに読ませたい本を、教育関係者や市民の皆様から推薦いただいたものです。

本を選んでくださった方

函館市長、教育長、教育委員長、はこだて幼稚園・戸井幼稚園の先生、小学校・中学校の校長先生、養護教諭、公立はこだて未来大学学長、中央図書館長、博物館長、函館市文学館長、ふるる函館館長、児童館運営協議会、学校図書館研究会会長、函館保育協会、学童保育所、函館の図書館と歩む会、

函館市立図書館、函館野外劇事務局、学校図書館アドバイザー、学校図書館ボランティアのみなさん、スクールカウンセラー、

いじめ等対策委員会、絵本読み語りグループ マシュマロ、市立函館高校図書館、北海道教育大学函館校サマースクール2010実行委員会、

その他公募に寄せられた、たくさんの本の中から選定させていただきました。

ご協力どうもありがとうございました。



引用・参考文献

- ・「小学校学習指導要領」「小学校学習指導要領解説」文部科学省
- ・「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説」文部科学省
- ・「学校図書館ABC 運営から指導まで」改訂3版
学校図書館研修資料編集委員会編 全国学校図書館協議 2004 年
- ・「学校図書館リフレッシュ」(図書館ブックレット9)
高梨佐智子など著 図書館流通センター 2004 年
- ・「読書力アップ! 学校図書館の作り方」
赤木かんこ著 光村図書出版 2010 年
- ・「学校図書館ビフォー・アフター物語」
五十嵐絹子編著 国土社 2009 年
- ・「こうすれば 子どもが育つ学校が変わる」(学校図書館活用教育ハンドブック) 朝陽第一小学校編著国土社 2003 年

平成22年度函館市学校教育指導資料 「学校図書館のとびらをひらこう」

発行日 平成23年3月31日
発行 函館市教育委員会
所在地 040-8666
函館市東雲町4番13号
電話 0138(21)3557
FAX 0138(21)7901